

みんなで創ろう豊かな里山を!!



毎年どんぐりの苗を植林して約10年が経ちました。環境など地域の諸条件によって実に多様な植林地が出現しています。やまなしどんぐりバンクでは、これらの植林地を集落の背後（里山）の生物多様性豊かで安全・安心な里山として育林することを目指して活動しています。

里山は、かつては集落に住む住人の生活の糧として・生産手段として、また子供たちの遊び場として等、様々に活用されてきた山です。近年の集落の過疎・高齢化により放置され荒廃しており、その再生が求められています。

私たちの里山再生は従来の視点とは異なり、健康で快適かつ豊かな生活空間の一部として定着させるべく、植林木・実生木・粗朶（そだ）木・草本・昆虫・動物など多様な生物と共生する里山づくりを目指します。多くの人々が里山を訪れ、様々な活動を行い、さらに豊かな里山となることを願っています。…みんなで里山に行こう!!

今年度の活動予定



最新情報は
Facebookから▶

4月初旬～中旬

苗床づくり・播種・植林

5月中旬

芽吹きイベント

6～9月

里山再生イベント
(植林地)

10月20日

どんぐり拾いイベント(べるが)

11月

伐採イベント(薪・ホダギ・たい肥作り)

3月

植樹祭・植林イベント



3か月でこんなに育ちました



植林地の土中環境の改善です



里山の土壌▶粗朶(そだ)・落ち葉・竹炭で



完成です!
できたマウンドで実のなる木を植えます



けもの道も活用します



元気なスタッフの面々

やまなしどんぐりバンクからのお知らせ

「どんぐり通信 No.23」をお届けいたします。本通信は「やまなしどんぐりバンク」にどんぐりを預託してくれた皆様、イベントに参加された方、里山再生に関心のある皆様にお届けしております。また北杜市内の図書館・観光案内所等に常置しております。皆様の御意見・御感想・御要望等をいただければ幸いです。

やまなしどんぐりバンク

代表：明石益夫 携帯▶090-5562-5345

Mail▶aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp





どんぐり コラム

前回に引き続き。今回は環境再生士の黒岩先生に「里山再生」への想いと、森づくりワークショップへのイメージを語っていただきました。

あなたの水を産み出す山は生きていますか？

自然農園経営・環境再生士 黒岩 成雄

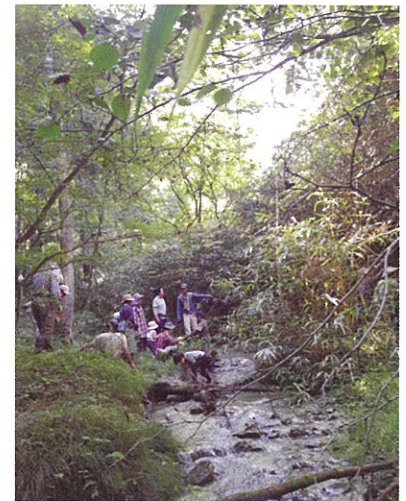
のけ姫のシシガミ様が出てきそうな泉でした。人を寄せ付けない、それでいて包み込んでくれるような優しさに満ちていて、少し恐ろしくなるような神聖さを放っていました。自然と手を合わせて感謝の想いをお伝えしたのを覚えています。

その泉は、時を経て今ではあの時の近寄りたがい感じが薄れてきているように感じます。周辺の環境の変化によって森が渴いてきて鬱蒼とした感じがなくなってきています。この変化にどれだけの人が気づいているのでしょうか？ぼくは、単なる景観のことではなく本能的にまずいと感じます。

近年、あちこちで山から流れてくる川の水量が減ったとか、湧水の水量が減ったとか井戸が枯れたなど良く聞くようになりました。そして、大雨が降ると川が増水して下流部で洪水の被害が多発しています。土砂崩れも多発しています。山で何が起きているのでしょうか？

現在、山では雨が大地に浸透する機能がなくなってきているといえます。健全な生きた山では大雨が降っても大地にゆっくり浸透して土の中を永い年月をかけて移動して谷筋や川に湧き出しています。しかし、現在の雨の浸透性を失った山からは大雨が降ると表層を流れる水の勢いがまして泥水となって川に流れ込みます。その様子は、山が血を流しているようにも見えます。

その原因は、効率重視の林業経営のための大規模な森の皆伐、大規模ソーラー発電のための尾根筋の森の皆伐や地形を無視した効率重視の林道のつけ方、工事の現場から運ばれる残土処理のために谷を埋めるように廃棄される盛土、防災のために作られる砂防堰堤やダムも山の呼吸の要になる谷筋をコンクリート重量物で圧迫してつまらせてしまうため二次的に災害を起こしている可能性があるといわれています。生きている山を資源や物質としてしかみない今の人間の視点が自然の災害を誘発しているのかもしれない。



戦後、経済の発達と共に上下水道が整備されました。このことによって私たちは蛇口から出てくる水がどこからやってくる水なのかわからなくなってしまいました。生きてゆくために欠かせない水を確保する苦勞がなくなることによって周りの環境への関心が薄れてしまったことが山を荒らしてしまっている原因のひとつかもしれません。

あなたの水を産み出す山に関心を寄せましょう。あなたの水を産み出す山は、生きていますか？水源の森と一緒に整えてゆきましょう。

今回は、農に携わるものの一人として森のお話しをしたいと思います。ぼくは、自然に寄り添い出来るだけ余計なことはしない農の在り方を模索して、27年目になります。農薬、化学肥料を使わない、大地を耕さない畑作りやお米作りを実践してきました。中々思うようにはいかないことも沢山有りましたが、自給自足的に日々生きてゆく為に必要な糧は獲られる暮らしを築いてきました。毎日野良に出る暮らしは、少し前の時代を生きた人には当たり前暮らしです。畑、田んぼに通い、時には山に通って暮らしに必要なものを分けてもらいました。

今の時代にはとても珍しい暮らし方かも知れませんが、野に吹く風を感じたり、今の季節ですと陽射しの温もりを有りがたく感じられて、自然を五感を通して知ることの出来る暮らしです。季節を彩る草花や虫たちの賑わいや移ろいを感じることも喜びです。小さなことですが、いろんな生命との繋がりの中に生かされていることに感謝の思いがわいてきます。

こんな暮らしをしていると田に引いている水やその水を育む森のことが気になります。僕の住んでいる地域の水源は、少し標高の高い森の中に湧いています。17年前初めて訪れた時コンコンと湧き出る水とその泉の周辺は、鬱蒼とした森がひろがっていて、もの

